

令和5年度 湯河原町総合教育会議 会議録

日 時 令和6年3月13日（水）午後1時26分～午後2時46分

場 所 湯河原町役場第2庁舎3階会議室

出席者

（委 員） 富田町長、菅沼教育長、西山委員、山田委員、深澤委員
鈴木委員

（教育委員会） 富士川教育グループ参事、大木学校教育課長、露木学校教育課副
課長兼指導主事、村松社会教育課長、二見図書館長、二宮美術館
長

（事 務 局） 高橋副町長、内藤政策グループ参事、鈴木地域政策課長

傍聴者 1名

1 開 会

※鈴木委員あいさつ

皆様こんにちは。1月より教育委員を仰せつかりました鈴木と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。吉浜小学校で定年退職を迎え、そのあところらの教育委員会で、お仕事を少しさせていただいておりました。また御縁ありまして、こちらの方で教育委員をやらせていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

2 町長あいさつ

皆様こんにちは。そして、大変長い間ご無沙汰で失礼を申し上げます。大変ご迷惑をおかけしているところがございますが、まず本日、本会議で年度末のお忙しい中お集りをいただきまして、開催できますことを御礼申し上げます。ありがとうございます。鈴木委員におかれましては、改めまして、よろしくお願ひ申し上げます。本日の内容につきましては、給食のことや、学校の今後の小中学校のあり方、まさに、いわゆる子どもさんが減っていくこの現実と教育現場をどのように合わせていくかとか、この必然性をどのように受け止めて、そして、どういう方向性を見出していくかというようなそういった意味で、本当に何十年に一回の大きな判断をしていくというこんなことを、いわゆる皆様方の力を借りながら、町全体の話題、課題にしていくという、そういった時期を迎えるような中での今日の案件でございますが、ご忌憚のないご意見をいただきたいというようにも思います。先日、詳細は分かりませんが、教育長の方から、皆様ご視察へ行かれたということで、積極的な教育委員会の活動に敬

意を表するといったところでございます。ありがとうございます。

少しだけ自分のことを話させていただきますが、昨年の9月から111日ほど入院をいたしまして、暮れに退院をし、現在、通院治療をしているところではありますが、簡単に言いますと血液の病気で、まだ輸血等をしないと全て自身の力で正しい血液が作れないという状況の中で、圧迫骨折を二か所していたりとか、副作用で髪がもちろんないのは、それはご案内のとおりかもしれません、そういったところもありました。ただ、基本的には、いたって元気でありますので、いい方向には向かっていると思うんですけど、なかなか、科学療法ではありますので、外側からは見えない状況もありますので、決して甘えるつもりではないんですけども、皆様方に詳細をお伝えし、こんな姿で不快な印象を与えてしまっているのかなという風に思ったりもありますが、できる限り、行事等はなかなか難しいですが、こういった会議や、先日の議会対応、行政の力を借りながらさせていただきました。少しずつ復帰をできるようにというそういう思いもでございますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

ではこの後に、会議に入ります。ご忌憚のない意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。

3 教育長あいさつ

改めまして皆様こんにちは。町長におかれましては、大変お忙しい中、総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。教育委員の皆様におかれましては、今の町長のご挨拶にもありましたとおり、先週大阪府で、昨日中学校の卒業式、来週には定例会と小学校の卒業式となかなか厳しい3月ではございますけれども、大変重要な案件がございまして、大綱に基づく事業の検証や、大綱の期間が終了しておりますので、その辺の見直しであったり、まさに、先週行ってきたあり方、現状を報告させていただいて、要は教育委員会の中で話をするのではなくて、この行政との会議の中で、ご意見を言っていただければと思っております。そのほかは現状の進捗状況と今日報告するところでございますので、どうぞ皆様よろしくお願いたします。

4 案 件

(1) 教育大綱に係る基本目標の重点項目に対する検証について…資料No.1

○資料No.1を説明（地域政策課）

○質疑

（西山委員）

…子どもたちの体験学習のことで、自分の思いといいますか、感じたものを

言わせていただきます。湯河原は、山あり川あり海ありさらには温泉ありということですね、自然にとっても恵まれたところだと、長年ここに住んでいて改めて思っております。ただこの財産っていうのかな、町の財産っていうのは決して観光客だけのものではない。やはり住んでいる町民、子どもたちもこの恩恵に浴する、それから権利といったものはあると思うんですね。その意味で、今までやってきたここにありますが、鮎だとかお茶摘みさらには温泉、それから学校によっては漁船体験等もあったかなと思いますけれども、そういった意味で、地域のこの素晴らしいものを子どもたちの学習に取り込むというような、非常に意味のあるものだという風には思っておりますので、この部分は引き続き推進していただきたいと思いますというふうに思っております。

(地域政策課長)

…まさにおっしゃられる通りで、ちょっとこの教育の場からはそれてしまうかもしれないんですけども、町長の方からもそういった、私たちの普段からこちらに住んでいるものでは気づかない部分っていうのが外から見ると、すごくいい事業であるということで、現在ですね、地域政策課の方で、移住施策に取り組んでいるんですけども、こういった外の人から見ると素晴らしい魅力的な部分っていうのを取りまとめた情報ツールを、今後、事務方が遅くて申し訳ないんですけども、いまそういったものを作る段取りをしているところではございますので、まさに西山委員がおっしゃられたところっていうのは、そういったことかなと感じているところでございます。

(町長)

…我々はこれを毎年、関係者のご協力をいただきながら、非常にスムーズにこなしていているので、ちょっと言葉は悪いんですけど、粗末にしちゃってるのかなと。でもこういうことでやっていることが、全く他所の地域の方から見ると、羨ましがられるというか、その違う目で見るとすごい価値観だっていることを、ある人とお話をしているときに気付かされた部分がありますので、やはり、関係者の力を借りながら、今の町の中での地域性もありながら、この学校によって内容が若干違っても、こういったものをですね、今、西山委員がおっしゃられるように子どもたちが、現場でその空気感を感じることは、とても大切なのかなというようなそんな思いから、改めて我々もそういった方々に感謝しながら、こういったものが続けられているといったことについて、本当に大切なことだという再認識をしっかりとしなければいけな

いのかなと、そんな思いでもあります。ありがとうございました。

(2) 教育大綱の改定について…資料No. 2

○資料No. 2 を説明（地域政策課）

○質疑

（教育長）

…内容的に僕からどうこうということは全然ございませんけれども、委員の皆様に見ていただければわかるように、一昨年、教育基本方針を大幅に改正した際にですね、大綱とか要綱とか、そういう方向性を決めるような総括的な理念に関わるものに、以前までは細かい計画まで書かれていた。それは教育委員会の基本方針とほぼ内容が同一化されたもので、やはりシンプルなものにした方がいいんじゃないかという考え方の中で、町側の事務局が考えてございますので、言葉は悪いかもしれませんが、そうすると教育委員会に理念を持ちつつも、もっと自由度を上げていく、あまり細かく規定されていない方がいいんじゃないかなというようになっていますね。

(3) 今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方について…資料No. 3

○資料No. 3 を説明（学校教育課）

○質疑

（西山委員）

…この、これからの湯河原町の小中学校のあり方をこれから私どもも含めてみんなで考えていくわけですが、その前に、私、昨日、湯中ですね、卒業式に出向いて感じたことがあります。同じ場にいられた方もいらっしゃるんですが、本当に良い卒業式で感動いたしました。かつては、学校によっては卒業式が最後まで終わるだろうとか、そういったような時代もあったかと思うんですが、昨日の卒業生、それから在校生、その様子を見ていて湯河原の教育は間違っていないよなというふうに思いました。もちろん来たばかりの方たち、卒業式の日という特別な日ですから、もしかしたらかしこまった部分もあるかもしれないですけども、ああいった生徒を本当に良く育ててくれたなど。教職員の方もそうですし、それを支えた教育委員会の方々もそうですし、もちろん保護者の見守り、地域の見守り、そういったものもあったかと思うんですけども、本当にこんな素晴らしい子どもたちに育てているのだなという、その根本にあるこの湯河原の教育施策というのかな、それは決して劣っていないし、間違ったものではないというふうに考えています。ただ、それが終わった後、自分自身も実は何十年かぶりに校歌を

歌ったんですけれども、自然に五十年、六十年近く前なんですけど、まだ覚えてるんですね。その感情はともかく、これからの町の学校のあり方を考えたときに、私たちは今まで、この人数による数字による、メリットだとかデメリットだとかを重点的に考えてきたんですけれども、昨日の子どもたちの様子から、それからまた誰か出るかもしれないけれども、先日大阪の学校視察をさせていただいた時に、これからの学校というのは、それ以外に子ども児童生徒にとって、ある程度居心地の良いなんかそういうものも加味した形で作っていかなくてはいけないと、つくっていつてあげたいというのかな、そういう思いをプラス事項で一つ研修を受けて見いだせたかなというふうに思います。もちろんまだこれからなんで本当にあの大阪の方でもですね、実際に学校編成に伴うために様々な説明会等本当にたくさんやっておりますし、その同意を得るまでいろんな紆余曲折があったというような話も聞いたんですけれども、でも私たちはこの仕事に、子どもたち、本当に湯河原の子どもたちにとってどういった形がベストなのかベターというかその表現はちょっと私には言えないですが、どういった形が子どもたちにとっていいのか、どういう子どもたちに育てほしいとそういう願いが明確になるのか、そのために、どんな力を固めてつけてあげた方がいいのだろうか、そういったようなことをもう一度原点に振り返りながら、先ほど、教育大綱の新しい部分についても、施策等が言われてますけれども、そういったものを基にしながらですね、これから学校のあり方を考えていきたいかなというふうに思っています。

(山田委員)

…ありがとうございます。ここ数か月、教育委員会でこの学校のあり方についてずっと毎月議論させていただく中で、先週大阪にみんなで視察に行かせていただいて、それはすごくよかったなと感じています。やはり、学校の環境が統廃合で新しくなって、地域の中で学校が一つなくなって統合するって大きいことだと思うんですけれども、実際にその作った時よりもさらに今生徒数が増えているっていうような話を、二クラスくらい教室が新築なのに足りないっていう。それってすごい状況だなと思いました。それが私立、よく私立で移住が増えましたっていうのがあると思うんですけれども、この公立でも学校が新しくなる、そしてその一つ目の学校はあまり学校のソフト面に関しては見れなかったんですけれども、ハードの環境が違うだけで、環境が変わるだけでこれだけ移住者が増えるっていうのはすごく大きいなというふうに感じました。ソフト面については市内の他の学校とも同じとのことで

した。今のこの湯河原町の学校のあり方だと人数が下がっていくっていう前提なんですけれども、下がっていく前提でも増える可能性があるっていうのも身をもって見学できたことで、これが湯河原の地域政策課さんの方で移住政策とかとつながってどうやってこの新しい学校ができることで湯河原町に人口が増えてより良い湯河原町になっていくっていうプランが描けるかっていうのは、どう考えたらいいのかなというような感じのところですよ。あとからクラス数を足すのも大変そうだし、最初から人数もないのに多くは作れないだろうと思うと、どういうふうに考えていくのかなと思っています。

(町長)

…ありがとうございます。視察先は子どもが増えたって。それから学校環境も一つの影響力としてある。

(教育長)

…やはり都市計画的な部分それプラス新しい学校ができたっていう両輪だと思う。学校だけではないし、あと都市計画的なものだけでもないし。

(西山委員)

…市全体で考えると増えているか、そこはちょっとわからなかったんですけどね。市町村というか噂を聞いてこの地区でこんな学校ができるみたいよってそれで移住された方もいるかもしれませんよね。

(教育長)

…この資料の中の4ページと5ページのところを見ていただきますと、先ほど西山委員からもお褒めの言葉をいただいたところですけども、やはりこれは、4ページの魅力ある教育って欄の②のアートコミュニケーショントレーニングっていうのが、おそらくこれで6・7年くらいやってきていると思います。そういった中でやっている現場では、子どもたちがいじめの問題について調査するとすぐ私がやりましたとか、苦しんでるときに先生に相談に乗ってくるとか今では自分に閉じこもってしまって苦しんだりとか、黙って何々が痛いとかそういう子どもたちがいた時代から、これを長く続けていくことによってそういう子どもたちが育ってきたと、非常にいい環境になってきたっていうのが一点と、それから皆さまも言っている通り5ページの一番上には地域と連携を図り、体験学習が充実している。ここには一番最初の理念が書いてあって、子どもたちにとってより良い環境とは、湯河原町はこういうふうに考えています。湯河原町教育委員会はこのように考えてますってことがここに示しておりますので、これは継承していきますし、これをやることによって移住施策まではいきませんが、そういうことをやっ

たりとかっていう中の一つには、今議論されているいつも話す話しですけども、事務局の方も外部への発信が下手で申し訳ないですけども、これをホームページ等で少しずつ発信してはいますが、していけばそこにどういう形であれ新しい学校ができてそんなことしているのかっていうのが、まさに今言っている移住のために教育の行為をするんじゃないじゃなくて、今やっている良いことを続けてそれを外に発信することによって、新しい建物を作ることによって、それが移住施策に繋がっていけばなというふうに考えておりますけれども。ただ一時的に教育委員会では移住というものを前面に押し出すのはなかなか厳しいと思いますけど、よいことを外に発信していくことが、要するにつながるんじゃないかなと思います。

(鈴木委員)

…子どもたちにとって魅力ある学校づくりっていうのは本当に大事なことで、生徒数が減少ということがある中でそういうことをどういう風の実現していくかってことを本当に大切なことだと思って、皆様と同じように考えました。その一つのモデルとして、私の中で資料を読ませていただきながら思ったことがありますので、お伝えしたいと思います。資料の3ページの(4)ですね、小学校・中学校の教育の(4)のところに、小規模特認校とあります。小規模の特認校というのは、小田原市などで実施されている業務といいますと、一学年が大体15人という枠を作ってですね、小規模の中で個別の個々に応じた、充実した教育学習を実践するということだと思うんですけども、私はそんなイメージを持っております。その小規模特認校をイメージした中で資料の10ページの②1校とする場合というページがありますが、1校とすることが適正な規模から考えて妥当かなというように私は読み取りましたけれども、この1校としながらも、小規模特認校をもう一つ作るということも、ここの検討のモデルとしてはあり得るかなというふうに思っています。やはり左下の表の令和11年4月の見込みで児童数の各学年から10、15人差し引いても、適正な規模に近いものを維持しながら、さらに小規模特認校もできるという形も今後の検討のモデルとしてはありえるかなと思っております。そういうことによって、個別の少人数の中で、個別の学習を落ち着いて学びたいというようなニーズのある子ども、保護者たちにとってもスムーズに答えることができるのではないかなというふうに思っております。

(教育長)

…すみません。議論する立場でもあり、事務局の代表でもあるのでお答えさせていただきます。まさにこの3ページの3つの大きな問題が書かれていま

すが、学びの多様化学校、小規模特認校、小中一貫教育校3つの学校の名前出ささせていただいております。事務局といたしましては、学校は適正規模の配置をしたい、そして魅力ある学校を作りたい、教育をやっていききたいという思いの中に、今ある長期欠席児童であったり、小規模に学校の中で通うっていうのもニーズが多いと厳しい。知っている人もいると思いますが、今東台福浦小学校の学校規模が非常に自分の子どもに合っているということで、湯河原に移住してきている方もいらっしゃる。そういったいろんなことがある中で、学びの多様化学校というのは、長期欠席児童に該当する自由度のある学校であり、小規模特認校は学校のクラスの規模を絞った学校であり、小中一貫校というのはまさに豊中市に見に行った、あれは規模が大きすぎますけれども、あのような9年制によって、9年生が1年生をみる、それが子供を養うし、1年生が大きくなった時に自分たちも下の子どもを見ると心が培われていく。そういうことをまさにその通りだと思っておりますので、それぞれの学校に、その中で小規模とか長期欠席児童をどうしていけばいいとかは今後議論していかなければならないと思っております。よろしく願いいたします。

(西山委員)

…かつて地元の学校、福浦の学校に勤めていた時になります。その時に多くの子どもたちがずっと卒業まで来ています。編制替えがないですから、幼稚園から小学校の卒業までずっと同じ仲間でしたんですね。その時に私ね、新しい友達が欲しい、もう少しいうとクラス替えができる、そんな希望というか、もっている子がかなりいたんですけどね。もちろんここで1校、2校、3校と色々な案があるんですけども、例えば少人数でメリットといいますか、十分活動できるような学習または学校生活といいますか、学校内の活動と、それから内容によっては人数が多い方が十分活動で力が出るのかな、出るものが大きいそういったものがあると思うんですよね。そういったことを考えながら、もしやると学校の中で、例えば、学習範囲によっては人数をもっと細かくするとか、もちろんそれに見合う施設もあるだろうし、それから指導する教員とかそういったようなものも必要となってくるわけですけども、そういう方法もありかなと、いま鈴木委員のお話を聞いて、1校にしてさらにもう一校そういった小規模のというような点も配慮が、いずれにしても何らかの現象で、1校になった場合でも、もしかしたら校内のそういった部分での調整というのかな、それで対応できることにもなるかもしれないと、資料内容によってはね、今ではそんなこともちょっとだけ閃いて、思い浮かびましたね。こういったものも含めてこれから考えていかなきゃい

けないですけれども、私は以前、皆様言ったんですけれども、5年後 10 年後もそこで学んでいる子どもたちをイメージしながら、このことに関わっていける、それはなんかほんとに大変なんだろうけれども、なんかちょっとわくわくするような感じでいます。その辺も含めてこれからも皆さんとともにこの問題について考えていきたいなというふうに思っています。

(深澤委員)

…湯河原の魅力みたいなものが地元はずっと住んでいたりするとわかっていなかったりとかして、一応うちはお客さん商売をしているもので、来た人たちから聞く湯河原の素晴らしさみたいなものをすごく実感させてもらえるんですよ。その中に移住してきたいから見に来た、だからこっちの方に少し泊りにっていう方もあったりとかして、移住したいとかっていう感覚がこの大人、高齢の方もそうですけど、結構若いご夫婦でこれから子どもを産む年齢だったりとか、もうお子さんがいて、東京とか都会の教育が、教育とか土地の感覚が比較じゃないけどやはりこの田舎の方で育てていきたいって方もすごく声を聞く感じもありますし、子ども出来ないってあきらめてたけれども、二人で自由に生きようみたいな感じに湯河原に来たらなんといいんですか、体が緩んで子どもができたってそういう方もいたりとかして、ほんと湯河原の育むものそのものが、もっとすごくこの今子どもが少なくなっているっていう数字的な統計以上に湯河原がこれから十年後くらいに新しい学校ができていくっていうのとか、新しい感度で教育の場を作っていこうっていうようなものが逆に人口が増えることに直結するかどうかはわからないんですけれども、ここで子どもたちを育てたいってことになったら、増えていくようなそういう感覚を、私はそういう外の人と関わることが多いので、すごく感じています。なので、教育委員会の中は、例えば教育のこととしてやりますけれども、ということでこういう資料作りとか調べるとか導入してくれる、やはりこの地域政策の方々と一緒にこの受け入れの土壌作りとか、あと来たいんだけどお家がないんだよねっていう方もきたりとかして、どっかいいところないかねっていうことよく聞かれて、いろんな不動産屋さんとかもお伝えするんですけれども、ちょっと町の中で、日本の中でも町が空き家を色々提供するとかそういうのも実践例があると思うので、10 年見据えながら、特にここから相続とかも出てきて、空いちちゃったから売る、土地の人じゃない人に売っちゃって違うマンションに入っちゃうとか、マンション立つことは悪いことじゃないですけど、もっとこう町の中にあつた建物がそのまま維持されていくようなマンションができるから人口が増えてよかったね、ではなくて、あるものが土地の人と外の人と一緒に大事にされて

いくような感覚の地域のこの感度を上げるとか、そこからそういうのを大事にしていく方が、ご夫婦とか家族とかで移住してくるっていう感覚が、いままですごい合っているなというふうに感じるので、今あるものにもう一度目を向けて、土地の中にあるものを、こう建物や、子どもたちの声を拾っていくっていうのを今から始めていくのが良いかなというふうに思いました。

(町長)

…ありがとうございました。まさに先ほどのいろんな体験をしていることも先ほどの一つだと思います。長年やっているんですけど、地元の方は当たり前なんですけど、外から見ると非常に新鮮である意味もそういう地域だから続けられるんですねっていうような地元の人との協力が自然の人との協力が自然にそこで営まれているわけですので、まさにそういう要素をもう一度見直すというのも教育の観点からも必要なのかなという気がしますね。

(山田委員)

…ありがとうございます。今の教育長とかの話も聞きながら、この3ページの(4)の学びの多様化学校、小規模特認校の話や、5ページの(8)にある長期欠席者、不登校についても触れられていたと思うんですけども、改めて今これを議論していく中で、感じたこととして、不登校が6%中学校でいるっていうことと、ただその小規模の学校とか小中一貫校になれば不登校の人が学校に行くかと言えば、おそらく何人かのきっかけにはなるかもしれないですが、様々な事情がある中で、不登校が減っていくっていうことは厳しいのかなというふうに思います。ただその教育、今後の町立幼稚園、小中学校のあり方の検討の資料なので、ここに入らないとは思いますが、教育委員会と地域政策課で町としては、やはりもっとこの不登校の子たちとか学校や家庭に居場所がない子どもたちの教育にもう少しフォーカスするような部分がどこかの文章にあってもいいのかなとは思いました。実際に宅食便をやらせていただいている中でもひとり親になって、たまたま縁もゆかりもない湯河原に引っ越してきたと、でもそこで宅食便を貰ってこういう町のサポートを受けられて、引っ越してきてよかったっていうような声も聞いています。なのでこういう、日本全国で子どもの数が減って移住のパイを奪い合うような状況だとは思いますが、逆になんかそれを聞いた時に、湯河原の人を癒して1200年というメッセージがあるので、やはり子育てに疲れてしまっている子育て世帯や、居場所を感じられなくなっている子たちが、やはり湯河原に来てこの自然ある湯河原の中で暮らして育つと親も子供も癒されて学校に復帰しなくても町内の民間の中で学校に行っただと同等に考えられるようなフリースクールのようなものがあるとかそういったところ

も議論ができるといいのではないかなと思いました。町としてそういった世帯だけがどんどん移住してきたら困るというのものもあるかもしれないんですけども、なんかそれでも湯河原らしくていいのかなっていうふうに個人的には思いました。

(町長)

…はい、ありがとうございます。まああのご経験からも裏付けされたご意見で、そういった視点というか最近は多様性というところもありますけど、どこまでそういったものを考えながら、地域の教育を考えていくかっていう、そういう必要性みたいなものもあるのかなというふうに思います。議論を壊すわけじゃないんですけども、私は個人的には、事務方は仕方がないんですけども、適正配置っていうと、今は不適正みたいに聞こえちゃうんですね、これはちょっと私の性格上の所ですけど。でも、適正配置ってじゃあ結果的には数とかなにかがの視点なのか適正配置って言われて、子どもたちに対しての適正配置と、ここでいう適正配置がほんとに一致している方向でいくのかっていうのは、非常に難しい話だとは思いますが、やはり今おっしゃられたようなことも含めて、どういうふうなやはりこの町の地形的な要素もあると思うんですね。ですから、いろんなことを各とこで考えないと、やはりご案内のとおり、町全体は小さいですけど、福浦と温泉場の奥地ですと、かなりの距離、それも直線道路で行けるわけでもないの、そういう地理的な要素もあったりだとか、いろんなことを考えて、それだけこの問題が非常に重要かつ非常に難題なことなのかなというこういったことを感じているわけでありまして、まあでも今日は皆さまのそういうようないろんなご意見をいただきながら、必ずしも数や何かそういったものに、必ずそこだけを押し込んでいくような議論はまだしてはいけないのかなというようにそんな気はしたところですけど、どうでしょうよろしいですかこの辺で、この件につきましては、いいですか。

はい、では本当にいろいろなご意見それぞれの立場からありがとうございます。

5 報 告

(1) 中学校給食について…資料No.4

- 資料No.4 を説明 (学校教育課)
- 質疑

(富田町長)

…親子方式になると、いわゆる給食室が工場という取扱いになるというこの許認可の関係のハードルが非常に高いという、その校内だけで食の提供であ

れば給食室という位置付けのようでありますけども、外に運び出すというそういった行為をすることによって、工場という扱いになるという私も今回職員から色々と事を進める中で、教えていただいたんですけども、そこら辺の権利の関係がですね、これ外側から見ても新しいものを建てるわけじゃないんですけども、現状の中でやるにおいても位置付けが変わるということが、ひとつハードルが意外と高かったりするということにはなりますので、日本の法律はほんとに隈なくいろんなところにあるいろんなものが絡んでくるだなど、よろしいですか。ではこういったことでことを進めてまいりますので、またこうご意見等あれば、お願いしたいというふうに思います。

(2) 中学校「お弁当」配色サービスについて…資料No.5

○資料No.5を説明（学校教育課）

○質疑

（西山委員）

…言葉尻を捕らえるようなところで申し訳ないんですけども、先ほどの中学校給食について、一番最後に9月には暫定的中学校給食と、そうしたときには、このお弁当の配食サービスの中学校給食を開始するまでの間ということ、この暫定的の内容によっては、いわゆる試食というかそれがない可能性もあるのかな、そうしたときにこのお弁当を作ってくくださる業者さんがそういった時でも対応してもらえるのかどうか。というのもここで暫定的というとおそらく機械を入れてもいろいろと調整だとかそういった部分も入るだろうかなとも思って、先ほど聞けば良かったんですけども、もし中学校が断定的になると湯河原小学校の給食も多分同じに作るわけだから、時間によって違うんだろうけど、そちらも影響を受けてしまうので、その暫定的がどういうものなのかも、ごめんなさい。

（学校教育課長）

…先ほどの資料No.4の資料ですね。こちらにつきまして、暫定的中学校給食開始予定と最後に書かせていただいておりますのは、湯河原中学校では、最終的には自校での、自分の学校での学校給食を目指しておりますので、そういった意味で、親子方式での実施を暫定的というふうな書き方をさせていただいておりますが、非常に分かりにくくて申し訳なかったと思いますが、まずは親子方式で実施をさせていただきます。ただそれが、最終目標ではなく、この学校のあり方を考える中で、最終的には自校式を目指したいと、そういう意味での暫定的という書き方をここでさせていただいておりますので、紛らわしくて申し訳ございませんでした。

(富田町長)

…そうすると今後、いまそういった誤解が生じるようなこともあるので、事務方はわかるかもしれませんが、外部の人がわからなければ、それは誤解が生じていけないので、ここの表現をどういうふうな表現にするのかそこはちょっとしっかりそういうところから疑問が解けると思いますよ。

(西山委員)

…親子方式で実施しますということですから、その親子方式という言葉そのまま使われてもそれが一番わかりやすいんじゃないかなと思います。

(富士川参事)

…ちょっと紛らわしい表現になっておまして、資料No. 4 のですね二つ目の方にも一応記載させていただいて、実施のさらなる推進ってところが2段落目にもありますけど、先ほど課長から申し上げた通り、元々は中学校に自校式でやりたいということがございましたが、早期実施の可能性が高いという中で、小学校における親子方式の暫定的な実施というのが流れとなっておりますので、今のご指摘いただいたように暫定的というとなかなか紛らわしいということもございますので、今後は暫定的ではございますけれども、親子方式による中学校給食というような表現に差替えたものがわかりやすいかなと考えております。

(町長)

…その辺をしっかりと今後、定例会の皆様だけではなく、今後、情報発信するときにも誤解が生じないように注意していただければと思います。お願いします。配食サービスについてはよろしいですか。

(3) 新入学祝金ついて…資料No. 6

○資料No. 6 を説明 (学校教育課)

○質疑等なし

6 その他

7 閉 会